

2008 年度春季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2008 年 5 月 18 日（日）～21 日（水）

午後：シンポジウム

第 4 日（5 月 21 日）

午前：口頭，ポスター

午後：専門分科会

2. 会 場

横浜市開港記念会館（横浜市中区本町 1-6）

横浜情報文化センター（横浜市中区日本大通 11）

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

5. シンポジウム

大会第 3 日（5 月 20 日）の午後に開催予定です。テーマは「海洋観測が切り拓く気候システム科学」です。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（5 月 18 日）

午前：口頭，ポスター

午後：公開講演会，専門分科会

第 2 日（5 月 19 日）

午前：口頭，ポスター

午後：総会，受賞記念講演，懇親会

第 3 日（5 月 20 日）

午前：口頭，ポスター

6. 懇親会

大会第 2 日（5 月 19 日）の夕刻に，横浜中華街（ローズホテル横浜 2 階，横浜市中区山下町 77，大会会場より徒歩 10 分程度）にて開催予定です。

7. 大会ウェブサイト【2008 年 1 月 15 日（火）開設予定】

本大会では，講演申込み受付や大会プログラムの掲載などを行うための大会ウェブサイトを，2008 年 1 月 15 日（火）より開設する予定です。URL 等の詳細につきましては，気象学会ホームページ（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/>）をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで予稿原稿を送付できない場合や，クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など，止むを得ない事情がある場合は，郵送による申込を受け付けます。

なお，大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。

・大会ウェブサイトを参照し，指示に従って申し込みをして下さい。

・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID の登録を行い，パスワード取得します（前回取得したパスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが，改めて個人情報と ID の登録及びパスワードの取得を行って下さい）。この ID とパスワードを元にシステムにログインし，大会参加登録・講演申込・予稿送付・大会参加費決済などを行います。

1.1 オンラインによる申込

・締切：2008 年 2 月 19 日（火）15 時（日本時間）

- ・個人情報とIDの登録は講演者本人が行ってください。登録された個人情報と異なる氏名・所属での講演申込はできません。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込（クレジットカード決済）をして下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演申込み締め切り（2月19日（火））までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2008年2月12日（火）必着
（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意下さい）
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局（下記）までお送り下さい。
 - ① 予稿原稿
 - ② 講演者氏名（漢字とローマ字）、会員番号、講演種別、連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）、講演題目、主・副キーワードと、使用機器を書いたもの（様式は自由です）
 - ③ 郵便振替払込受領証（次項参照）
 送付先：
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部内
気象学会講演企画委員会事務局
（封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。）
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい
 - ①「2008年度春季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
 - ③大会参加種別（講演者Aまたは講演者B）

④大会参加費金額

⑤懇親会費金額

⑥合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意下さい。
- ・大会当日に講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会（kouenkikaku2008s@mri-jma.go.jp）までご相談下さい。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2008年4月8日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む（クレジットカード決済のみ）。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2008年4月1日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込む。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい
 - ①「2008年度春季大会参加申込」と明記
 - ②大会参加種別（聴講者）
 - ③大会参加費金額（3,000円）
 - ④懇親会費金額
 - ⑤合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払う（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 大会参加費

- 大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- 講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

- 懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです（懇

親会では重慶飯店の料理もお楽しみ頂けます。幅広い年代の交流を絶やさないため、学生の方が参加しやすい料金設定にさせていただきました。一般の方のご理解、ご協力をお願い申し上げます）。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	6,000 円	7,000 円
学生	3,500 円	4,500 円

- 懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- 領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。

Ⅲ. 予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

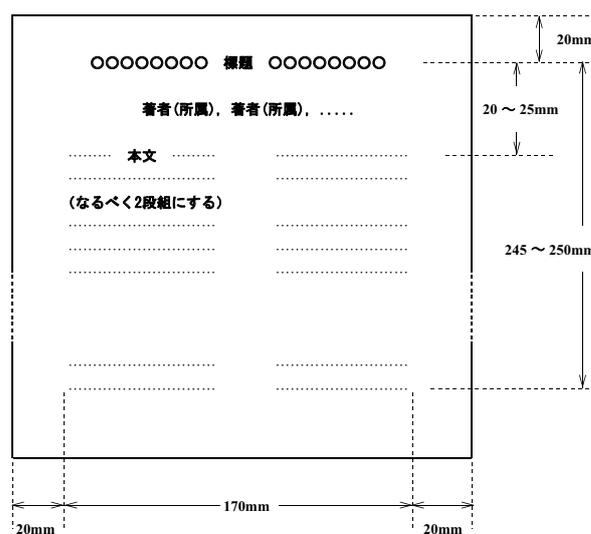
1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。



図： A4 判用紙による予稿原稿の作成要領

4. 配置 (付図参照)

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつけて下さい。標題から本文までの間隔は 20~25mm

として下さい。本文はなるべく 2 段組 (左半分→右半分) にして下さい。

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は (社) 日本気象学会に帰属します。

IV. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表 (専門分科会を含む) とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法 (口頭/ポスター) につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は、大会第 1 日 (5 月 18 日 (日)) 及び大会第 4 日 (5 月 21 日 (水)) の午後で開催予定です。
- ・専門分科会の各講演の講演時間はコンピーナーが決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同

じ (オンライン申込は 2 月 19 日 (火)、郵送申込は 2 月 12 日 (火)) です。

- ・専門分科会に申し込まれた発表については、コンピーナーが予稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申し込まれた発表が、コンピーナーによって専門分科会に適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は 1 時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦 150 cm×横 90 cm 程度です。なお、ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。
- ・今大会では会場の都合により、一度に掲示できるポスターの枚数が 50 件程度と例年の春季大会より若干少なくなっております。このため、申込の状況によってはポスターに申し込まれた講演が口頭発表に振り替えられる場合もありますので、予めご承知おき下さい。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表 (専門分科会を含む) につきましては、PC プロジェクターと OHP が使用できますが、それ以外の機器は使用できません。

- OHP を使用したい場合は、講演申込時に届け出て下さい。講演申込時に届けがない場合は PC プロジェクターを用いた発表とみなします。
- PC プロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
 - ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。
- ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、

機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出て下さい。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

- ポスター発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合により口頭発表に振替になった場合を想定して、口頭発表時の使用機器の届出をお願いします。

8. その他

- 申込まれた予稿の内容が、(ア) 気象学とは全く無関係である、(イ) 極めて非合理的・非論理的である、(ウ) 他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることが適当でない講演企画委員会が判断した場合には、講演を認めないことがあります。
- 大会プログラムは「天気」4月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2008 年度春季大会では下記の通り、7 件の専門分科会が開かれます。

1. 「広域スケールの陸域生物圏に関する最新の動向」

趣旨：陸域生物圏-大気間の相互作用プロセスは、広域スケールの気候形成に対して様々な影響を与え、地球環境を理解する上で重要な研究対象となっている。例えば第2期 IGBP では、iLEAPS (統合的陸域生態-大気プロセス研究) がコアプロジェクトとして推進されているし、地球システム統合モデル開発でも生物圏プロセスの取り込みは大きな課題の1つとなっている。本専門分科会では、従来の気象学で着目されてきた熱水収支だけでなく、物質交換の観測・モデリングや衛星観測とデータ同化などのトピックスを取り上げ、この分野の最新動向を紹介する。各種プロジェクトが平行して進められている現状を踏まえ、大気研究との学際的な情報交換を促進するとともに、今後の課題の明確化と効果的な研究推進について議論を行

いたい。

コンビーナー：伊藤昭彦 (国立環境研究所)、馬淵和雄、青木輝夫 (気象研究所)、大谷義一 (森林総合研究所)、西田顕郎 (筑波大学)、佐々井崇博 (産業総合技術研究所)

2. 「CMIP3 マルチ気候モデルにおける大気海洋諸現象の再現性比較」

趣旨：地球温暖化に伴う環境変化が、具体的にいかなる現象としてどのような振幅で発現し得るかは、私達の生活にとって重要な問題である。世界各国の機関において温暖化の将来予測のための気候モデルシミュレーションが行われ、IPCC の第4次報告書にその新しい知見が集約された。本専門分科会では、様々な大気海洋現象に焦点をあて、WCRP 第3次結合モデル相互比較プログラム (CMIP3) の下に集約されているマルチモデル 20 世紀結合実験結果と観測データとの比較解析によって大気海洋諸現象についての気候モデル再現性を検討した研究成果を持ち寄り、個々の現象の再現性およ

びそれらの相互関係を議論する。この議論を通じて、現象変化予測のためのモデルの検討に資するとともに、対象とする現象のメカニズムについての理解を深め、温暖化の影響でそれらが将来被り得る変化・変動についての予測結果の解釈にも資することを目標とする。

コンピーナー：高藪 縁，木本昌秀（東京大学気候システム研究センター），尾瀬智昭（気象研究所），中村 尚（東京大学大学院理学系研究科）

3. 「衛星による降水観測：TRMM 10周年を迎えて」

趣旨：熱帯降雨観測衛星（TRMM）は2007年11月末に10年間の観測を達成する。TRMMは世界で初めて降雨レーダを搭載することにより、熱帯・亜熱帯域の降水量推定精度の向上や降水システムの理解に大きく貢献してきたが、さらに長期間のデータが利用可能となったことにより、降水の年々変動などの研究にも役立てられ始めている。またTRMMは衛星群による降水分布観測の中で、重要な役割を演じている。例えば、我が国でもマイクロ波放射計による全球降水マップ作成プロジェクト（通称GSMaP）が2002年から2007年の5年間、（独）科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（CREST）水循環テーマの一環として実施され、世界に比肩するアルゴリズムの開発が行われた。本専門分科会では、TRMM観測10年を機に全球降水の長期データの利用および研究から得られた成果や、TRMMの後継計画である全球降水観測計画（GPM）時代における全球降水データの応用や将来展望について議論を行いたい。

コンピーナー：沖 理子（宇宙航空研究開発機構），高橋暢宏（情報通信研究機構），中澤哲夫（気象研究所）

4. 「南極大型大気レーダーを軸とした極域大気研究の可能性」

趣旨：南極昭和基地は、気象庁定常観測、極地研を中心とした各研究機関による大気研究観測が精力的に行なわれ、世界的に見ても数少ない総合大気観測拠点となっている。南極大気は人間活動から隔絶されているため、ノイズが小さく、地球気候のモニタリングに適しており、また、カタバ風や、オゾンホール、夜光雲、オーロラなど、顕著な（シ

グナルが大きい）大気現象が見られる領域でもある。しかしながら、下層大気と超高層大気をつなぐ中層大気の観測は手薄であり、上下結合がとりわけ重要な極域大気研究は他の緯度帯に比べれば、遅れているといわざるを得ない。2000年に始まった南極昭和基地大型大気レーダー計画（PANSY）では、この問題を克服し、既存の大気観測をつないで極域大気全体を統合的に捉えるため、南極で運用可能な大型大気レーダー（MSTレーダー）の開発およびフィージビリティスタディを行なってきた。現在、ほぼ全ての問題点を解決し、実現可能なシステムが見えてきた。この計画の国内外の評価は高く、IUGGを初め、関連するほとんどの国際学術組織からの支持を得ている。PANSY研究グループでは、毎年極地研を中心に研究集会を開催し、技術開発および科学目標について広く議論を積み重ねてきた。本分科会では、気象学会の多くの会員に参加いただき、本計画の意義や可能性についてさらに議論を深めたいと考えている。

コンピーナー：佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科），山内 恭，堤 雅基（国立極地研究所），齊藤昭則（京都大学大学院理学研究科），富川喜弘（国立極地研究所）

5. 「持続可能で安全な都市環境への気象研究の役割」

趣旨：近年世界的に都市への人口集中が続く中、東京サリン事件、2003年のヨーロッパでの熱波など、気象が関連する都市の自然的・人為的災害や都市環境に対する世界的な関心が高まっている。2009年6月の第7回国際都市気候会議（横浜）を前に、都市気候・気象に関する観測的研究、数値モデルによる研究、これらの社会的問題への応用研究等について相互の連携を促進する専門分科会を開催する。特に①複雑で多様性を持つ都市空間における気象観測データを今後どのように整理していくのか、②メソスケールからマイクロスケールの気象モデルはどのように設計されるべきか、③これらのモデルに組み込まれる都市情報はどのように取得され整理されるべきか、④研究の結果はどのように社会に伝達・還元されるべきか等の直面する課題に対して議論と連携を深めたい。なお、講演についてはかなりの部分を招待講演とすることを予定しています。また、単に事例研究的な発表

ではなく上記4点のいずれかについて明瞭なアイデアをお持ちの一般発表を歓迎いたします。

コンビナー：近藤裕昭（産業技術総合研究所），足永靖信（建築研究所），一ノ瀬俊明（国立環境研究所），神田 学（東京工業大学），日下博幸（筑波大学），菅原広史（防衛大学校），藤部文昭（気象研究所），持田 灯（東北大学），森山正和（神戸大学），森脇 亮（愛媛大学）

6. 「季節予報を定量的に利用する」

趣旨：気象庁が世界に先駆け、アンサンブル手法による数値予報を季節予報に導入してからおよそ12年がたち、数値予報結果の特性などの知見も蓄積されてきた。いうまでもなく、毎回の予報のためには膨大な数値計算が行なわれており、これら膨大なデータをもっと活用する術はないのか、特に、定量的な利用はできないのかということに期待したくなる。他方、利用するには、対象とする現象によってどのような影響が現れるのか、影響を軽減するための方策、そのために必要な情報や精度など、といった点が明確になっていないと難しい。このような観点から、情報を提供する側、利用する側双方から、定量的な利用に向けての世界の動向、季節予報利用の現状や課題などを提起しあい、定量的利用に向けて、何が必要か、何をすべきかなどについて議論する。なお、利活用ということ

に重きをおき、予測手法・予測技術は話題としない。

コンビナー：渡辺典昭（気象庁気候情報課），登内道彦（気象業務支援センター），経田正幸（気象庁気候情報課）

7. 「大気リモートセンシングデータ解析技術における工夫」

趣旨：近年、衛星搭載センサーや地上リモートセンシング技術の向上により、これまで検出が難しかった新たな大気物理量の抽出が可能になりつつある。これらは単に検出器の技術的な向上のみならず、データ解析手法における様々な工夫が為されたものである。本分科会は、このようなリモートセンシングデータの解析技術について、“なるほど”と思われる工夫を紹介しあい、基本技術や観測対象の異なる研究者間で、新たな工夫や応用に繋げるための情報交換の場としたい。今回は特に大気中気体成分の導出手法について、衛星観測、地上観測（受動型）、ライダー観測などの分野の話題を集めたい。ただ、それ以外の話題でもおもしろいと思われるものであれば何でも歓迎であるので、是非とも投稿頂きたい。

コンビナー：今須良一，齋藤尚子（東京大学気候システム研究センター），笠井康子（情報通信研究機構），杉本伸夫，太田芳文（国立環境研究所）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員

の講演を認める（予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、専門分科会に関しては各コンビナーの判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

Ⅶ. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2008s@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。

申込期限：2008年2月19日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

Ⅷ. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の斡旋を予定しております。詳細については大会ホームページ開設（1月頃）に合わせてご案内致します。

Ⅸ. 大会実行委員会からのお知らせとお願い

1. 横浜市の取り組みの一環で横浜市関連施設である大会両会場には原則としてごみ箱が設置されていません。ごみのお持ち帰りにご協力頂けますようお願い致します。
2. 一般市民向け公開講演会（教育と普及委員会主催）を大会第1日目（5月18日）に開催する予定です。
3. 大会開催期間中に、横浜地方気象台見学ツアーを実施する予定です。